宮柊二記念館だより

2012.10.25
第 38 号
発行　宮柊二記念館
TEL･FAX
025－794－3800

特別企画展テープカット

宮柊二生誕100年・そして記念館オープン20周年

二十年の歩み

昭和歌壇を代表する歌人「宮柊二」の生誕一〇〇年、そして「宮柊二記念館」が平成四年十一月に開館して二〇年…特にこの二〇年は難題、課題の連続だったように思われます。

館の建築工事竣工からオープンまで数ヶ月間での準備作業にがんばった関係職員とその仲間のこと。そして迎えた開館の日の英子夫人からの「今日は柊二日和…」との言葉に感激してしまったことや、旧堀之内町では全国に呼びかけて行う事業が少なかったことから「短歌大会」実施に向け、知恵を絞りあったこと。

今年は記念すべき節目の年、春からコスモス短歌会を筆頭に多彩な事業が実施されてきています。記念館としても、全力を挙げてこれに応えていく所存です。

これまでご遺族のご理解をはじめ、地域の皆様、全国の皆様から記念館を支えていただいてまいりました。今後とも変わらないご理解とご支援をいただき、皆様に開かれた「宮柊二記念館となるよう一歩ずつ進みたいと考えております。

宮柊二記念館長

宮柊二記念館　20年のあゆみ

HISTORY

多くの皆様に支えられてきた宮柊二記念館です。
この開館２０年にあたって、
これまでの大きな出来事をふりかえってみました。

平成4年11月23日、宮柊二記念館開館。

昭和 61 年　宮柊二逝去（12月11日）
昭和 62 年　宮英子氏より柊二関連資料及び寄付金を堀之内町へ寄贈
平成 4 年　宮柊二記念館竣工（6月30日）
平成 4 年　宮柊二記念館開館（11月23日）
平成４年度　特別企画「宮柊二の生涯」展（～５年度）
平成６年度　特別企画「歌集の周辺」展
平成７年度　戦後50年特別企画「宮柊二の戦中・戦後」展
　第1回宮柊二記念館短歌大会　選者：馬場あき子氏・中山礼治氏・高野公彦氏
平成８年度　没後10年特別企画「歌と遺品でたどる心の軌跡」展（～９年度）
　第2回短歌大会　選者：馬場あき子氏・安立スハル氏・柏崎驍二氏
平成９年度　第3回短歌大会　選者：馬場あき子氏・今村寛氏・山本清氏
平成10年度　コスモス創刊45周年特別企画「宮柊二とコスモス」展（～11年度）
　第4回短歌大会　選者：河野裕子氏・武田弘之氏・奥村晃作氏
　「宮柊二記念館 図録」発行
平成11年度　第5回短歌大会　選者：小高賢氏・田谷鋭氏・杜沢光一郎氏
平成12年度　特別企画「柊二をめぐる人々」展
　第6回短歌大会　選者：宮地伸一氏・桑原正紀氏
　新潟県より博物館相当施設の認定を受ける（平成13年3月19日）

平成14年、開館10周年を記念して歌碑を建立。

平成13年度　没後15年特別企画「宮柊二記念館 収蔵第１級資料」展
　第7回短歌大会　選者：岡野弘彦氏・宮英子氏
　宮柊二記念館友の会発足
　「宮柊二記念館だより」 第１号発行
平成14年度　開館10周年記念特別企画「白秋と柊二」展
　第8回短歌大会　選者：馬場あき子氏・高野公彦氏
　開館10周年記念事業　宮柊二歌碑建立ほか
　「宮柊二記念館 収蔵資料目録」発行
平成15年度　相馬御風生誕120年特別企画「御風と柊二」展
　第9回短歌大会　選者：栗木京子氏・影山一男氏
平成16年度　魚沼市誕生記念特別企画「柊二とふるさと魚沼」展
　第10回短歌大会　選者：伊藤一彦氏・木畑紀子氏
平成17年度　會津八一50回忌・宮柊二20回忌特別企画「八一と柊二」展
　第11回短歌大会　選者：雨宮雅子氏・狩野一男氏
平成18年度　没後20年記念特別企画「柊二と英子」展
　第12回短歌大会　選者：外塚喬氏・森重香代子氏
平成19年度　開館15周年記念特別企画「柊二と山西省」展
　第13回短歌大会　選者：来嶋靖生氏・小島ゆかり氏
平成20年度　コスモス創刊55周年記念特別企画「柊二 青春の歌」展
　第14回短歌大会　選者：香川ヒサ氏・岡崎康行氏
平成21年度　市制施行5周年記念・中越大震災復興記念「柊二とその家族」展
　第15回短歌大会　選者：前川佐重郎氏・日影康子氏
　市制施行5周年記念・中越大震災復興記念事業　宮柊二歌碑建立２基
　「宮柊二記念館 収蔵資料目録（第2版）」発行

平成21年、市制施行5周年と
中越大震災復興記念として歌碑を建立。

平成22年度　特別企画「柊二 望郷の歌」展
　第16回短歌大会　選者：大島史洋氏・日野原典子氏
　中越大震災復興記念事業　宮柊二ふるさとの歌写真集発刊
平成23年度　特別企画「宮柊二 その埋没の姿勢」展
　第17回短歌大会　選者：御供平佶氏・水島晴子氏
平成24年度　宮柊二生誕100年・宮柊二記念館開館20周年記念「宮柊二の遺産100選」展
　第18回短歌大会　選者：今野寿美氏・武田弘之氏

「宮柊二の遺産一〇〇選」展
オープニングセレモニーと祝賀会

「宮柊二」生誕一〇〇年、「宮柊二記念館」開館二〇周年を記念しての企画展「宮柊二の遺産一〇〇選」は五月二十六日にスタートしました。それ以降、県内外から多くのお客様においでいただいています。

オープン当日は、宮英子先生ほか、ご親族をお迎えして、オープニングセレモニーとテープカットが行われました、市長の挨拶などに続き、武田弘之先生から「歌は生の証明 - 宮柊二に学ぶ -」と題して記念講演をしていただきました。武田先生ご自身のこれまでを振り返りながら、師と仰ぐ柊二の作品と生き方を語る姿に、参加者が感動する姿が印象的でした。

会場を堀之内公民館に移しての祝賀会では、英子先生のほか、長女・片柳草生様、長男・宮布由樹様からもスピーチをいただきました。また、参加者からも「おもいで」を披露していただくなど、閉宴まで和やかに進行され、予定どおりの日程を終えることができました。

武田弘之 講演会の概要

一生懸命に生き、一生懸命に作る歌を

武田先生は、宮柊二から二十七年間、直接教えを受けていたそうです。

前半は、コスモス創刊号に掲載された「みづからの生の証明を」の内容について、武田先生ならではの解釈を説明していただきました。また、「コスモス」昭和41年6月号に掲載された文章と、昭和44年に尾鷲市で行われたコスモス大会での講話をもとに、「生の証明」について、柊二が述べた内容を紹介してくださいました。

それらの話を受けて、漢和大辞典に記載されている「生」の意味と、その字の成り立ちについて、説明していただきました。

後半では、「生」に関連する作品を十首紹介していただき、それぞれ鑑賞してくださいました。

おそらくは知らるるなけむ一兵の
生きの有様をまつぶさに遂げむ

この歌には、一兵士でなければ引き受けられない運命を引き受け、見届けようという決意があり、「つぶさに遂げむ」とすれば七音に収まるところを、あえて「まつぶさに遂げむ」としてその強い意志をあらわしている、とのことでした。

この病気癒して生きん徐々徐々に
百歳までは生きん気がする

病で苦しむ柊二の姿を見ていたコスモスの会員たちが「百歳まで生きる」という内容に感激し、「がんばってください」という雰囲気になった、という話をしてくださいました。

講演の最後には、印象に残っている宮柊二の言葉を紹介してくださいました。「一生涯歌を作るとして、千年後、自分の歌が五首残るかなあ。そうすれば自分は満足だな、歌っていうのはそういうもんだろう」。一生懸命に生きようとし、自分の気持ちを表現しようとして歌を作る。千年残る歌はほとんどできないけれど、それに向かって一生懸命に作っていく、宮先生はそれが「生の証明」になると、おっしゃっていたのではないか、とのお話しでした。

第十八回宮柊二記念館全国短歌大会

応募は三〇％増　一万首を突破

今年で十八回目となる短歌大会への応募状況は、一般の部では八六〇首、ジュニアの部では一万首を超えることとなり、これまでの最高だった昨年の八三〇〇首あまりを大きく上回り、初めて一万一千首の大台となりました。

例年通り、国内だけでなく、台湾、カナダなど海外からの応募があったほか、今回は特に高校生の作品が四千首を超えるなど、ジュニア部門において、大きな伸びが見られました。

選歌をお願いしている今野寿美先生、武田弘之先生には、大会までの限られた期間での作業は厳しいものになりそうです。

節目の年に行われる記念大会の成功にむけ、関係者一丸となってがんばってまいりますので、よろしくお願いいたします。

第１８回　宮柊二記念館全国短歌大会表彰式

◎日　時　平成２４年１１月１８日（日）
　　１２：００～１５：００
◎会　場　魚沼市堀之内公民館　大ホール
　　※宮柊二記念館隣り
◎内　容　①選者講評
　　②表彰式
◎交　通
〔車〕関越自動車道　堀之内I.C　3分
〔鉄道〕上越線越後堀之内駅　車で3分・徒歩15分
◎その他
記念館にて特別賞受賞者の短歌色紙を展示します

短歌大会　応募状況

区　　分	応募作品数
一般の部	860首
ジュニアの部	10,140首
（小学生）	2,373首
（中学生）	3,299首
（高校生）	4,468首
総　　計	11,000首

短歌大会　選者ご紹介

武田（たけだ）　弘之（ひろゆき）さん

１９３３年、愛知県岡崎市に生まれる。早稲田大学国文科卒、学習研究社に勤め、教育図書の編集に３８年間携わる、１９５９年コスモス短歌会に入会、宮柊二に師事。同短歌会の選者・編集委員及び宮柊二記念館運営委員を歴任。日本文藝家協会・現代歌人協会会員。神奈川県新聞歌壇・文芸春秋「オール讀物」短歌欄選者。読売文化センター短歌教室講師。日本現代詩歌文学館評議員・神奈川県歌人会委員。

１９６７年、第１３回角川短歌賞、１９７４年、第２１回コスモス賞、１９９７年第１９回コスモス評論賞、２００９年、第２８回神奈川県歌人会優良歌集賞、受賞。歌集『聲また時』『往反』『藤の内外』『地上天上』『卯月みなづき』『山鳩と鶯』、評論集『歌人・大塚金之助ノート』がある。

神奈川県海老名市在住。

今野（こんの）　寿美（すみ）さん

１９５２年東京生まれ。７９年に「午後の章」５０首により角川短歌賞受賞。『世紀末の桃』（第１３回現代短歌女流賞受賞）、『龍笛』（第１回葛原妙子賞受賞）ほか『雪占』まで９冊の歌集がある。

和歌の入門エッセイ集『歌がたみ』（平凡社）、児童のための短歌入門書『作ってみよう らくらく短歌』『読んでみよう わくわく短歌』（偕成社）、近代短歌をめぐる『わがふところにさくら来てちる—山川登美子と「明星」—』（五柳書院）、『24のキーワードで読む与謝野晶子』（本阿弥書店）、『山川登美子歌集』（岩波文庫）ほか『歌のドルフィン』（ながらみ書房）、『馬場あき子』（本阿弥書店）、『短歌のための文語文法入門』（角川学芸出版）などの歌書がある。

歌誌「りとむ」編集人。現代歌人協会会員、日本文藝家協会会員。

神奈川県川崎市在住。

平成24年度前期事業

暑かった夏が過ぎ、年度の前半が終わりました。記念館では、これまでにいくつもの事業に取り組んできましたので、その一部を紹介いたします。

多様な視点の作品を評し合う短歌教室

記念館の主要事業の一つとして定着した「短歌教室」は、今年も４５名の登録がありました。5月に第１回を開設し、毎回２０名程で開催しています。

生活詠、家族詠、社会詠など多様な視点からの作品に対し、それぞれで評しあいながらの教室です。

短歌教室は８月、１２月を除く年９回の開設となっています。本年度は後半になってしまいましたので、ぜひ新年度から参加いただきますようご案内いたします。

展示資料に囲まれて好評だった短歌セミナー

７月２２日、岡崎康行先生を講師にお招きし、柊二の第６歌集である『多く夜の歌』をテーマに、短歌セミナーがありました。

この歌集の収録歌は１２５１首という多さです。この頃、柊二はコスモス短歌会を軌道にのせるためにも、精力的に活動していたそうです。そのため旅行詠も多く、毎年、全国を飛び回っていた様子もうかがえるとのことでした。会社員をしながらのこれだけの活動は驚異的である、とのお話しでした。

暑い夏、五七五七七…に汗ジュニア短歌教室開催

夏休み終盤の８月２４日、記念館において「ジュニア短歌教室」を開催しました。

記念館では、一般の方を対象に「短歌教室」を開催してきましたが、昨年、はじめてジュニア対象の事業としてスタートさせました。初の取組でもあり、前回は参加も少なかったのですが、今回は小・中学生のほか、保護者からの参加もあり、盛会のうちに終了することができました。

指導いただいた本多義夫さん、星キイさん、吉田初江さんは、子どもたちが熱心に取り組む姿勢に感心されていました。

残暑の夕べに澄んだ音色が流れ

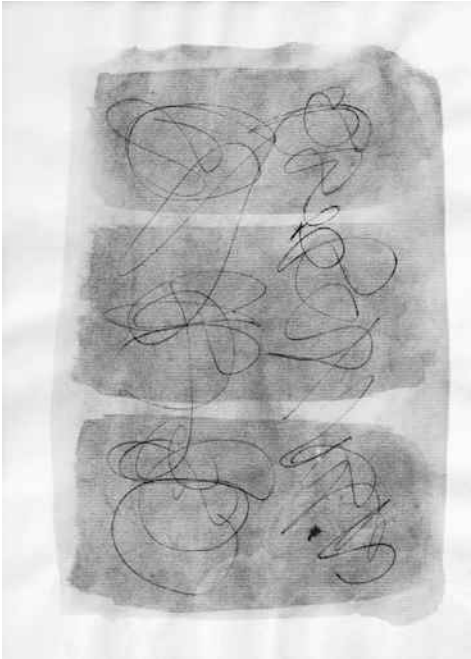
撮影:相田憲克

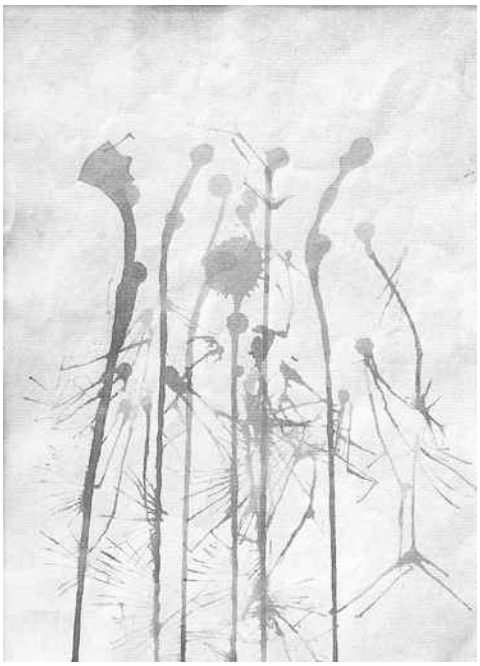
まだ残暑の厳しい９月６日の夜、記念館第一展示室を会場に「サロンコンサート」が行われました。

今回も小出郷文化会館のご好意により開催されたコンサートでしたが、当日までの申込み状況に比べて当日おいでの方が多く、４０名近いご来場となり、会場はほぼ満席となりました。

会場にお越しの皆さんはアコーディオンとギターの澄んだ音色に聞き入っていました。

瀧口修造 画
柊二歌集『多く夜の歌』挿絵画





宮柊二記念館収蔵資料紹介　ＮＯ.３８

瀧口修造は詩人･画家で、美術評論家として著名な人物。英子夫人の叔父にあたる。この作品は、柊二の退職に際し、同僚からの餞別として貰い受けたもの。歌集収録の「雨負ひて暗道帰る宮肇君絵を提げ退職の金を握りて」にある絵とはこの絵のことである。

将来の活動に向けて
「基金」を設置しました

宮柊二生誕百年、宮柊二記念館開館二十周年の年を迎えるにあたり、五月二十五日午後、宮英子先生およびコスモス短歌会有志の皆様から「魚沼市あてに寄付を…」とのお考えが伝えられました。

当日は、英子先生のほか、長女の片柳草生様、長男の宮布由樹様が市役所市長室を訪問され、大平市長、中川副市長同席のもとで、目録が手渡されました。

これを受け市では、これまでの事業の継続のほか、子どもたちを含む将来世代への短歌の普及などを目指し、有効に活用させていただくため、「宮柊二記念館基金条例」の設置を九月定例議会に提案し、議決を受けました。

「友の会」からのお知らせ

宮柊二記念館友の会では、会員を募集しています。年会費は一、〇〇〇円です。

くわしいことは、宮柊二記念館へお問い合わせください。

宮柊二記念館だより　第３８号
発　行　２０１２．１０．２５
問合せ　宮柊二記念館（〒９４９－７４１３　新潟県魚沼市堀之内117-6）　TEL･FAX　０２５－７９４－３８００
メール　miya-museum@city.uonuma.niigata.jp　ホームページ　http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji